

宮内新横浜線（宮内工区）・（仮称）等々力大橋 事業説明会 議事録（質問と回答）

※全体説明後の質疑応答部分のみを抜き出しております。

※少しでもご理解が得られるよう質問と回答の一部を校正・補足しております。

Q1 ボックスカルバートの通行方法について

質問者	多摩沿線道路と宮内新横浜線の交差部のところに整備されているトンネル（ボックスカルバート）について、説明では一方通行になるとのことでしたが、歩行者はどのような通行形態になるのでしょうか。
市回答	交通管理者との協議により、ボックスカルバート内は、自動車は一方通行となりますが、歩行者や自転車は双方向に通行可能となります。

Q2 地域分断、通学路、横断箇所について

質問者	宮内新横浜線が整備されると地域が分断されますが、地域住民への配慮はどのように考えていますか。特に宮内小学校へ通学する児童の安全確保について教えてください。
市回答	宮内新横浜線と多摩沿線道路及び国道409号との交差点、そして新設する信号機付きの取付部交差点において宮内新横浜線を横断していただく計画となっています。また、幹線道路となる宮内新横浜線に交通を集約することで、現在、生活道路を通行している大型車などが減少し、生活道路の安全性が向上するものと考えています。 通学路については、教育委員会や学校と連携し、安全面を考慮しながら道路整備の進捗状況に応じて見直しを行っていきます。
質問者	信号機や歩道は整備されるのでしょうか。
市回答	取付部となる交差点には信号機を設置する計画です。また、多摩沿線道路の副道以外の新設道路には、歩道を整備する計画です。
質問者	この周辺の住民は大きく迂回しなければならないということですか。特に、この地域は小学生の通行が多く、計画道路の中央よりも多摩沿線道路側の地域では、どちらかの交差点まで回る必要があり、かなりの遠回りになると思います。
市回答	車両については中央部に接続道路があります。歩行者については、図面には表示していませんが、本線へ取り付く箇所があります。詳細な位置については <u>後方の平面図</u> で確認できるため、個別にご確認をお願いします。 ※ 後方の平面図：ホームページ内に掲載しております。

質問者	確認したいのは歩行者の通行方法です。車両の通行ルートがあることは分かりますが、子どもたちはどこを通行するのでしょうか。この区間内に横断歩道は設置されないのでしょうか。
市回答	現計画では、この区間内には横断歩道は設置されません。
質問者	道路ができることで地域が分断され、学校へは約700メートルの距離がある交差点まで大きく迂回するなど、遠回りして行かなければならなくなるため、子どもたちの負担が大きく、安全面にも不安があります。道路の下を通る歩行者専用通路の整備や、前後の道路との接続を十分に確保する整備などは検討できないのでしょうか。
市回答	道路の下を横断できるボックスカルバートについては、市としても設置ができないか交通管理者と協議してきた経過がありますが、通行における安全性の観点から設置できないとの結論に至っています。今回のご意見を交通管理者とも共有しますが、現時点では、新たな横断施設の設置は難しい状況です。
質問者	道路の下を通行できるようにした方が、安全性が確保できるのではないのでしょうか。横断施設がないことで、かえって安全性が損なわれるのではないのでしょうか。
市回答	交通管理者との協議において安全性の観点から検討が行われた結果、横断施設を設置しない方が安全性を確保できるとの判断に至ったものと考えています。

Q3 宮内58号線の交通量増加、信号、自転車・歩行者安全対策について

質問者	宮内新横浜線が供用されると宮内58号線の交通量が増えるのではないかと懸念していますが、これに伴い大型車の通行量が増加した場合の自転車の安全対策、信号機の設置についてはどのように考えていますか。 また、宮内58号線は危険な箇所がたくさんあるため、今後の安全対策についても検討してもらえますか。
市回答	本事業により、大型車をはじめとする自動車は宮内新横浜線を通行するようになり、宮内58号線の交通量は増えないと想定しているため、安全性が向上すると考えています。なお、宮内新横浜線には歩道や自転車通行帯を整備するため、宮内58号線を通行する歩行者や自転車の交通量が減少し、安全性が向上するものと考えています。 また、宮内58号線の安全対策については、現地を確認し、必要に応じた対策を検討します。
質問者	宮内58号線の歩道には電柱が設置されていて通行しづらい箇所があり、人や自転車が安全に通行できない場所もあります。また、段差も多く、子どもや高齢者にとって利用しづらい状況です。この機会に歩道の改善やバリアフリー化などの対策は考えていないのでしょうか。

市回答	現在、具体的な改善計画はありませんが、宮内５８号線は歩道を含めて道路公園センターが管理していますので、今後、現地の状況を確認しながら、道路公園センターとも連携し、安全対策について検討を進めていきたいと考えています。
質問者	道路整備による利便性向上の効果は理解していますが、何よりも人命と安全を優先していただきたいと思います。よろしくお願いします。

Q4 （仮称）等々力大橋が先行完成した場合の暫定供用と生活道路への流入について

質問者	（仮称）等々力大橋が先に完成し、宮内新横浜線が未完成だった場合、宮内５８号線などの狭い生活道路へ交通が流入することになるのではないのでしょうか。
市回答	その点については課題として認識しています。 （仮称）等々力大橋の完成時に、宮内新横浜線も多摩沿線道路から西下橋交差点までの全区間が完成することを目指していますが、用地の取得状況や道路整備の進捗状況などによっては、中間交差点や多摩沿線道路等で接続する段階的な供用となる可能性もあることから、ご指摘の点を踏まえながら、その場合の交通規制や運用方法について、交通管理者と協議していく必要があると考えています。
質問者	その場合、車両はＵターンできるのでしょうか。 また、進入した車両が折り返して戻ることができない可能性もあるということでしょうか。
市回答	段階的な供用となった場合のＵターン等の交通規制については、今後、警察などの交通管理者との協議によって決定されます。実際の供用開始時期に合わせて改めて協議を行い、その結果についてお知らせしたいと考えています。

Q5 多摩沿線道路の工事中の通行止め、工事期間について

質問者	多摩沿線道路のかさ上げ工事により、通行止めは生じますか。また、工事期間はどのくらいですか。
市回答	原則、通行止めは行いません。現状の相互通行を確保するため、車線を切り替えながら、交通処理に支障が生じないよう工事を行います。また、工事期間はおおむね５～６年を見込んでいます。
質問者	一方通行の説明図で、ボックスカルバート部分に登戸方面から川崎方面へ向かう矢印が示されていましたが、これはどのような意味でしょうか。
市回答	その矢印は車両の進行方向を示しており、ボックスカルバート内は、車両については一方通行となります。車両はボックスカルバートを通過した後、右折して進行することになります。

質問者

その場所でUターンできるということでしょうか。

市回答

ボックスカルバートを利用することでUターンが可能となります。

Q6 等々力緑地再編、イベント交通、周辺道路への影響について

質問者

道路の交通量は増えないとの説明でしたが、その点について疑問を感じています。現在、等々力地区では再編整備事業が進められており、計画には大規模な駐車場整備や商業施設、体育館の更新、イベントの誘致などが含まれています。現在でもサッカーやバスケットボールの試合開催時には激しい渋滞が発生していますが、再編整備事業が予定どおり進めば、さらに多くの車両が流入することになると思います。

その場合、橋を渡ってきた車両が接続道路を経由して市道に流入したり、国道409号からアクセスしたりすることが想定されます。総合的に考えると、この道路整備によって宮内地区への車両流入が助長されるのではないかと懸念しています。そのような状況を見据えた検討や対策について伺います。

市回答

交通量については、宮内新横浜線の完成形を前提として将来交通量推計を実施しています。計画している4車線についても、将来予測交通量を踏まえて決定しています。検討にあたっては、国道409号や多摩沿線道路を含めた道路ネットワーク全体の交通流動を考慮しています。

一方で、宮内58号線など個別路線における交通量の増減については、詳細な予測ができていない部分もあります。そのため、供用前の交通量調査に加え、供用後についても事後調査を実施し、交通量の変化を把握した上で、必要な対策があれば検討していきたいと考えています。

また、イベント開催等による交通量の増加については、等々力緑地の担当部署とも調整し、どの程度の交通量増加が見込まれるのか確認していきたいと考えています。シミュレーション結果などについては、今後の説明会等の場でお示しできればと思います。現時点では具体的な交通量増加の見通しが整理できていないため、今後の検討課題として対応していきたいと考えています。

質問者

交通量の増加が見えていないとのことですが、再編整備事業そのものが来訪者の増加を目的とした計画であり、車両交通も増加することが前提ではないでしょうか。関係部署と十分な連携を図っていただきたいと思います。地域の安全確保に関わる問題です。

また、現在でも大型車両や物流施設に出入りするトレーラーが市道を利用しており、宮内北交差点では危険な状況が日常的に見られます。仮に西下橋付近で車両の通行が制限された場合、物流施設へ出入りする車両はどのルートを通行することになるのでしょうか。

市回答

基本的には、宮内新横浜線を利用していただき、国道409号や多摩沿線道路へ接続するルートを想定しています。

質問者	国道４０９号側から進入してきた大型車両は、宮内新横浜線を通してどのように多摩沿線道路へ接続するのでしょうか。
市回答	宮内新横浜線は多摩沿線道路と平面交差する計画となっているため、当該交差点から右折して多摩沿線道路へ進行することが可能です。
質問者	その右折は円滑に行えるのでしょうか。
市回答	交通シミュレーションにおいては、当該交差点での右折を含め、交通が円滑に処理できる想定となっています。そのため、計画上はスムーズな交通処理が可能であると考えています。

Q7 用地買収が進まない理由について

質問者	用地買収が進んでいないという認識を持っていますが、進まない理由について、市側の見解を教えてください。
市回答	用地のご協力をお願いしている方々には様々な事情がありますが、例えば、事業所や工場などを営まれている方については、その場所で、あるいは移転先での事業継続や生活についての影響が大きいことなどから調整に時間を要しています。

Q8 説明資料の不足、ホームページ掲載について

質問者	これだけ大きな事業であるにもかかわらず、参加者に配布された資料は限られており、この内容だけで事業の詳細を理解するのは難しいと感じています。スクリーンを見ながら説明を受けても内容を十分に把握できず、質問すると後方の図面を見るよう案内されますが、それでは理解しづらいと思います。少なくともスクリーンに投影している資料については配布資料に含めていただければ、各自で内容を確認することができます。本日の説明だけでは十分に理解できませんでしたので、改善をお願いしたいと思います。
市回答	資料が不十分で分かりにくい説明となっしまい、申し訳ありませんでした。今回の説明会で使用した資料については、今後、市のホームページに掲載する予定です。後日になりますが、本日スクリーンで使用した資料やデータを皆様が確認できるようにします。今回は事前にご用意できず、ご不便をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

Q9 住民意見の計画反映、横断施設・通学路について

質問者	道路によって地域の南北移動が難しくなり、向こう側へ渡れなくなるという点についてですが、本日、参加者から出された意見や要望は、今後の計画内容に反映されるのでしょうか。
-----	--

市回答	交差点や信号位置については既に交通管理者と協議済みであり、大きな変更は難しい状況です。一方で、通学路や地域の安全対策については学校や関係機関と調整しながら、できる限り安全が確保できるよう必要な対策について検討します。
質問者	つまり、現時点では歩行者は途中で横断できず、この道路によって地域が分断されるということになるのでしょうか。
市回答	現時点では新たな横断箇所を設置する方針をお示しできる状況にはありません。皆様からいただいたご要望については、改めて警察など、関係機関と協議を行いますが、これまでの協議経過を踏まえると、実現は難しい状況です。
質問者	北側の地域から南側にある学校へ通学する児童にとっては、かなり大きな影響があります。検討した結果については、今後の説明の中で示していただくようお願いします。
市回答	ご指摘の点は重要な課題であると認識しています。通学児童を含めた地域の移動や安全確保については、今後も十分に確認・検討を行っていきたいと考えています。

Q10 事業の進捗、住民への説明、予算、ホームページ改善について

質問者	工事が遅れていると言われていますが、「交渉を続けています」という説明だけで具体的な進捗が見えません。これまでも東京側の橋梁事業の遅れなどが理由として説明されてきましたが、現在の最大の課題となっている箇所については、事業者側が移転できない状況にあるとのこと。そのような状況に対して、市としてどのような対応を行っているのでしょうか。
市回答	現在、関係権利者の皆様に対しては、ご理解、ご協力が得られるよう、粘り強く交渉を継続しています。
質問者	交渉を行っていないと言いたいわけではありません。しかし、担当者が変わるたびに話を聞いても、その後の進展が見えません。同じような状況が何年も続いています。横断箇所や大型車両の問題についても以前から指摘しています。信号交差点でも大型車が続くことで横断できないことがありますし、等々力緑地周辺では駐車場を探す車両が宮内58号線へ流入しています。そうした日常生活への影響について、もっと地域の声を聞いていただきたいと思います。この道路が完成すると、宮内地区は完全に分断されてしまいます。
市回答	宮内新横浜線については、多くの事業がある中でも優先度の高い事業として進めていく考えです。地域の皆様のご希望どおりに事業が進んでいないことについては申し訳なく思っていますが、事業推進に向けて最大限取り組んでいることはご理解ください。
質問者	今後、具体的にどのように事業を進めていく予定なのでしょうか。

市回答

市としては、全線整備を完了させ、（仮称）等々力大橋の開通時には西下橋方面まで接続した状態で供用することが最も望ましいと考えています。しかし、用地取得やその後の工事に要する期間を踏まえると、（仮称）等々力大橋開通時点で全線供用を実現することは現状では難しいと認識しています。

そのため、まずは取付部交差点までの整備・供用ができないか検討しています。また、用地取得の状況によっては、多摩沿線道路との接続部分までの整備にとどまる可能性もあります。

質問者

事業を進めるための予算は確保されているのでしょうか。

市回答

国の補助金の確保に努めるとともに、市の財源も活用しながら事業を進めています。一方で、市の財政状況が厳しいことは事実であり、要望した予算額が全て確保できている状況ではありません。

質問者

川崎市のホームページは必要な情報を探しにくく、事業内容にたどり着くのが大変です。改善できないでしょうか。

市回答

その点については市としても課題と認識しています。現在、道路整備課において、ホームページの改善に取り組むチームを立ち上げており、宮内工区に関するページについても優先的に改善を進めています。すぐに対応できるものではありませんが、できるだけ早く内容の充実とアクセスのしやすさの向上を図っていきたいと考えています。

質問者

ホームページにはパワーポイントの図面を掲載するだけでなく、本日の説明内容も確認できるようにするのでしょうか。

市回答

図面だけでなく説明内容も併せて掲載した方が、皆様にとって理解しやすいと考えています。そのため、説明内容を確認できるようなホームページへの掲載方法についても、今後、検討していきたいと考えています。